

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	令和4年度第2回子ども・子育て会議			
開催日時	令和5年2月2日（木） 開会時刻 午後1時30分 閉会時刻 午後3時00分			
開催場所	ふじみ野市役所第4庁舎 D201会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	小栗 俊之	事務局	皆川 恒晴
	副会長	山城 いづみ	〃	土屋 範久
	委員	栗原 貴紀	〃	齊藤 隆之
	〃	町田 千優	〃	西 宏和
	〃	福元 啓子	〃	細田 春恵
	〃	喜多川 千秋	〃	関根 寛之
	〃	橋本 幸子	〃	坂寄 絵理
	〃	桑原 千重子	〃	鈴川 貴洋
	〃	細井 吐夢	地域福祉課長	岩崎 明央
	〃	戸塚 咸子		
	〃	中村 友紀		
	〃	井上 天志		
	〃	渡部 有希		
〃	川目 美佳子			
〃	土岐 幸司			
会議の議題	(1) 会長、副会長の選出 (2) ふじみ野市子ども・子育て支援事業計画の概要と次期計画について (3) その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	1人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	こども・元気健康部子育て支援課			
議事の確定	確定年月日	令和5年3月15日		
	記名押印 又は署名	会長 小栗 俊之 ㊟ ※自署の場合は、押印不要です。		

別紙

発言の要旨

発言者	発言の要旨
小栗会長	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状の交付</p> <p>3 副市長挨拶</p> <p>4 議題 議題（１）会長、副会長の選出 委員からの推薦により、小栗俊之会長、山城いづみ副会長が選出された。</p> <p>議題（２）子ども・子育て支援事業計画の概要と次期計画について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>【会議資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第２期子ども・子育て支援事業計画 ・第２期ふじみ野市子ども・子育て支援事業計画 量の見込みと確保内容 ・第３期ふじみ野市子ども・子育て支援事業計画について
小栗会長	<p>事務局より説明</p> <p>計画の流れについて説明がありました。資料にあるように現在は令和４年度であるため、第２期計画が進行している状況です。今後、第３期計画に向けて皆様に意見をいただく機会がやってくるという流れになります。</p> <p>まずは私から、膨大なアンケート等を基に第２期計画を策定していただいた事務局のご尽力に感謝します。</p> <p>また、財政的、人材的に限りがある中で１５０にも渡るたくさんの施策を展開されているという点にも感謝します。</p> <p>ここで計画のアウトラインを説明いただきましたが、委員の皆様には、現場で困っていることや考えていること等でも構わないので、一言お願いします。</p>
栗原委員	<p>こどもの未来をはぐくむシンポジウムに参加をして、</p>

大人が子どもに手本を見せてほしいという子どもからの意見が印象的でした。例えば、親も通勤等で大変だとは思いますが、福岡中央公園近くのスクランブル交差点に自転車が突っ込んでいく姿を見ると心が痛み、大人が子どもにそのような姿を見せてはいけないと感じます。

現在はPTAとして子どもに対して色々考えていますが、今度は大人に対する支援も考えていけないのかなと感じました。

また、所属団体でPTAに関するアンケートを実施したところ、忙しさや負担感から、PTAを不要と感じる回答が半数以上ありました。親は子育て以外にもやることがあるので、PTA等を考える時間がないのかなと思います。

現在はPTAをしているため、大人が子どもに手本を見せなければならないということを考えますが、日々が忙しいとそのようなことを考える時間が無くなってしまうのではないか、大人が考える時間を作っていければと感じています。

町田委員

数年前にふじみ野市に転入をしてきてこの会議に出席をしており、ふじみ野市はいろいろな子育て施策を実施してくれていると感じています。

転入前の自治体より道が狭いためかもしれませんが、子どもと歩道を歩いていると、自転車のベルを鳴らされることがよくあります。土地に限りはあると思いますが、今後考えていければいいなと思っています。

福元委員

第2期子ども・子育て支援事業計画が策定されすぐにコロナ禍となり、電話での相談が増えたのではないかと感じています。孤独に奮闘している親もいたのではないかと心配していました。今後、コロナの取扱いが変わるようですが、第3期計画に向けたアンケートの回答で、これまでとニーズが変わってくるのかなと思っています。

障がい児者の親の会に参加していますが、障がいと言っても障がいが多様化していると感じます。障がいと一括りにせず、様々な思いをどう計画に取り入れていけるかが楽しみです。

また、子どもの支援を丁寧にするすることで、成人後の支援にも良い流れを繋げることができるかもしれないと期

待をしています。

喜多川委員

私立幼稚園PTAとして、幼稚園保護者からの意見を取りまとめた要望書を市長あてに提出をし、その回答を見て感じたことを話します。

公園について、ボール遊びができないなど規制があることや、このような遊具がほしい。というような要望が多かったです。

また、母親が働きたいけど子どもが保育園に入れず、幼稚園に入れて幼稚園の預かりも使いながら働いている人がいます。もっと簡単に一時預かりを使うことができるなど、働く環境を作ることができないかと感じました。

働きたいと思っている母親はいっぱいおり、資格や能力を持っている人も多いと思います。そんな人を応援できるようなことができればと思っています。

橋本委員

幼稚園は県の管轄ということもありこれまで市との関わりがあまりありませんでしたが、幼児教育無償化を契機として、やっと市との関わりができました。

管轄の違いはありますが、同じ地域で同じような年齢の子どもが育つ場であるので、どの子も平等で幸せに育つように情報交換ができればと考えています。

桑原委員

最近の園長会では、気になる子どもが増えたという話題が増えました。そのような子どもは園での生活が適しているのか、苦痛ではないか、などと考える機会が増えました。親が悩んでいるということもあり、そのような子どもを集団の中で育てたいと思っていますが、保育士不足もあり見てあげられないことがあります。

とはいえ、人材派遣会社から保育士を採用すると金銭的負担が多いのが現状です。保育園のあり方や、すべての子どもを豊かに見ていけるよう見直したいと絶えず思っています。

発達がゆっくりの子ども向けの事業もしていますが、相談件数が増えています。受け入れについては県と相談をしていますが、むやみに預かることはできない状況です。また学童保育事業もしていますが、そこで自分たちがなにをすることができるかを考えています。

そして、支援センター事業では利用者が減少傾向です。支援センターの役割が変わってきたのか等、見直し

細井委員

をしながら計画に含めていければと考えています。

障がい児施設の管理者をしています。皆様の話を聞いて、これまで狭い中で仕事をしてきたと感じました。もっと外に目を向けて仕事をするいい機会になったので、自分なりに考えつつ、今後意見を言うことができたらと思っています

戸塚委員

40年前はほとんどいなかった外国籍の子どもが増えました。外国籍の子どもも、ふじみ野市の子どもです。言葉や学力など様々な障壁があり、親が子どもの経験を消化してあげられないこともあります。

外国籍の子どもは学校や公園で少し違う目で見られるので、下を向いている子どもが多いと思います。そのような子どもが、上を向いて歩けるようなことを考えられたらいいと思っています。

中村委員

こどもの未来を育む条例に策定委員として関わり、子どもの、大人に手本を見せてほしいという言葉が印象に残りました。大人が手本を見せることができるように、子どもを育てるために大人を応援する施策が必要だと感じました。

P T Aが不要であるという意見は自治組織でも一緒に、負担感があり面倒くさいという意見があります。大切に地域づくりを行い、大人作りから子どもを育てるということに繋ぐような施策もいいかと思いました。

また先ほど、保育士不足の話と働きたい親がいるという話を聞いて、仕事の需要と供給を繋ぐことができるようなこともできれば面白いのかなと思いました。

第3期計画は貧困計画も含まれるということで、地域福祉課との連携が密になっていくと思います。これまで以上に課を超えて横断的に取り組んでいく必要があると感じました。

井上委員

イオンタウンではお客様から様々な意見や要望をいただいています。統計を取っているわけではありませんが、遊び場や相談できるような場所が欲しいといった、子育てに関するものが多いです。イオンタウンとしてなにができるかということで、上福岡図書館と協力しておはなし会を実施しています。

報酬を支払って講師に来てもらい実施するのは簡単ですが、それでは一過性のものとなり発展しないので、地

域に根差して活動できる人と協力したいと考えています。

渡部委員

イオンタウンは場所がいっぱいあるので、イベント開催やスペース的なことはぜひ相談をしてください。

小学校で絵本読み聞かせボランティアをしています。働く親が増えたことで参加できる人が減りました。私が参加している小学校では地域の高齢者に声を掛け、地域を巻き込んで実施しています。それでもボランティアの数は少ないですが、読み聞かせは大事なことなので多世代交流の場として継続したいと考えています。アドバイス等あればお願いします。

川目委員

私が子育てしている人と関わった体験をしたことから思ったことですが、大人が余裕をもつ必要があると感じました。そのような人の手助けができたかと考えています。

P T Aの関係では、先日地域の祭に参加しました。委員は集めず有志として参加をし、参加前は負担感がありましたが、参加をすると学校のことが分かり先生との繋がりもできると感じました。なにより子どもが楽しんでいましたし、頑張る大人の姿を見せることができよかったです。大人がそのような場に行けるようにしていくことが必要だと思いました。

土岐委員

進学塾ではなく補習塾を経営しており、不登校の問題が気になっています。

中学3年間不登校だった生徒に不登校になった理由を聞いたことがあるのですが、もともと勉強が得意じゃなかったようで、それでも小学生の時は友達が手伝ってくれてなんとなっていたけれど、中学生になると友達も忙しくなって同じようにはいけなくなり、学校に行きにくくなったと話してくれました。

コロナ禍もあり経験不足で、人間関係構築や自己開示ができない子どもが増えているような気がします。そして、私も下を向いている子どもが増えているのではないかと思います。

山城副会長

なにをするかは難しいですが、子どもがいろいろな経験をしてほしいなと思っています。

近年、子ども会に参加する子どもの数が減っています。小学校中学年までは入っているけれど、役員が回っ

てくる高学年になると辞めてしまう方が多いです。なので、役員のなり手不足が問題になっています。

自治会でも役員のなり手がいないということで、自治会から子ども会へ手伝いの依頼があることもありますが、これも負担感があるようで、子ども会単独での事業は止めて、自治会の手伝いだけにしてしまうところや、子ども会を止めてしまうところも出てきています。

子ども会は異年齢の子どもが参加しているので、上級生が下級生の面倒を見て、その下級生が成長したら今後はその子が面倒を見るという優しさの循環が生まれていると思います。

ふじみ野市子ども会育成団体連絡協議会の事業ではかるた大会を実施していますが、これも小学生がかるたを取り合い、その審判を小学生の時に参加していた中高生が担ってくれています。小学生がその中高生に憧れ、成長した時に審判として参加してくれることも良い循環となっています。

小栗会長

皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

私は常々、現場の声を活かすということを考えています。今日あった話は、ふじみ野市の現場での課題や問題だと思うので、今回の話を踏まえて第3期計画策定に向けてのアンケートの内容を考えたりすると、ふじみ野市ならではの計画ができていくのではないかと思います。

事務局

次に（3）その他についてなにかありますか。

小栗会長

事務局から事務連絡

令和4年度第2回子ども・子育て会議を閉会します。次回は秋ごろになる予定です。また、日程調整にご協力よろしくお願いします。

5 閉会